
領域名：老年保健看護

報告者：山口 初代

教育及び実践の課題

本学の老年保健看護領域における臨地実習指導は、老年保健看護実習I（2年次前期）と老年保健看護実習II（4年次前期）がある。

老年保健看護実習Iでは、老年期の発達課題を乗り越えることで得た強みを学び、その強みを高齢者の看護実践に活かす能力を習得するために、確実に観察やコミュニケーション場面が記述され、実習指導に活かされる必要があった。老年保健看護実習IIでは、認知症高齢者の尊厳を支えるための具体的な看護実践が出来る能力と自己を振り返り課題を見出す能力を習得するために、実習指導者と実習指導教員がそれぞれの強みが活かされる必要があった。

活用した論文の概要

論文の研究目的は、看護学生の視点から、臨地実習での異なるモデルにおける看護教員であるUNT(University Nurse Teachers)^{※1}とCNT（Clinical Nurse Teachers）^{※2}の役割を記述し、比較することであった。

その結果、UNTは、臨床的な問題についての最新の知識を維持し、カンファレンスのために臨地実習場所を訪ねるだけでなく、看護学生に情緒的サポートを与えていた。CNTは、大学の教員の一員として、臨地実習の企画に参加し、看護学生に学習目標を説明することが課題であることが示唆された。

※1 UNT:大学で採用され、日々の臨床における看護業務には参加しない看護教員

※2 CNT:保健医療機関で採用され、勤務時間を、教育と臨床における看護業務に割り当てる看護教員

教育及び実践への活用

老年保健看護実習Iでは、観察やコミュニケーション場面が具体的に記述されるよう、プロセスレコードを用いた記録用紙に改善した。実習指導教員は学生の思考プロセスから情緒的サポートがしやすくなった。また、学生自身は具体的な場面から対象の捉え方を視覚化でき、既習の理論との統合が容易になると考えられた。

老年保健看護実習IIでは、実習指導のあり方について、学生、実習指導者、実習指導教員に、科目責任者や施設管理者等を加え勉強会を開催した。学生の対象への関わりが優れた場面では、実習指導者、実習指導教員のそれぞれの強みを活かした協働がみられたことを共有した。

参考文献

Margarea Gustafsson. (2015). Nurse teacher models in clinical education from the perspective of student nurses –A mixed method study. *Nursing Education Today*, 35(12). 1289-1294.
